

誰もが役割を持って働ける場所を創りたい ～NPO法人あきた結いネット～ 秋田市



理事長の坂下氏

秋田市にある特定非営利活動法人(NPO法人)あきた結いネット(理事長 さかした みき 坂下美渉氏)は、社会的弱者の自立に向けて、「住む場所」と「働く場所」の確保の支援に取り組んでいる。

●NPO法人を立ち上げ「住む場所」を提供

坂下理事長は、かつて県内の福祉事業所で相談員として働いていた際に、より積極的な支援を通して生活困窮者や障がい者など社会的弱者の課題を解決したいと考えるようになり、NPO法人の立ち上げを決意し、2013年に同法人を設立した。

坂下理事長は、まず、最優先事業として、様々な理由で住む場所に困っている人を一時的に受け入れられる場所の提供に取り組んできた。2025年6月までに、市内に緊急避難用のシェルター(定員4名)、住宅相談や見守りなどを行う相談支援付き住宅(定員4名)、利用者が支援を受けながら共同生活を送るグループホーム2か所(定員10名)、1人暮らしに向けた訓練をする借り上げアパート(定員4名)を整備し、行政や他団体では対応が難しい人を受け入れている。

【事業所概要】

- 1 代表者名 坂下 美渉
- 2 所在地 秋田市桜2-24-24
- 3 事業内容 障害福祉サービス業、生活困窮者支援業、セレクトショップの運営、更生保護事業
- 4 創業 2013年
- 5 TEL 018-874-8897
- 6 FAX 018-874-8251
- 7 URL <https://akitayuinet.com>
- 8 e-mail info@akitayuinet.sakura.ne.jp

●「働く場所」も提供し経済的自立を支援

住む場所を確保した人が自立した生活を送るには、次に働く場所が必要となる。同法人は、社会的弱者の経済的自立に向けた就労支援も行っている。

同法人は、2017年から就労継続支援B型事業所(定員20名)を運営しており、通所者は近隣の宿泊施設で清掃業務を行っている。現在は15名が通所しているが、これまでに就労経験を積んだ後に一般企業への就職に移行するケースもみられた。また、2020年には、全国の障がい者約70名が製作した雑貨や洋服などを扱うセレクトショップ「story cat」を秋田市南通に開業したほか、2023年にキッチンカー、翌2024年にはショップ内にカフェを開業するなど、多くの社会的弱者に雇用を提供してきた。



セレクトショップ「story cat」

●寄せられる問い合わせは年間100件以上

2025年9月現在、同法人の職員数は17名で、女性が6割を占める。年代は10～60代と幅広く、40代の割合が高くなっている。

同法人への問い合わせは、認知度向上とニーズの高まりからサービスの利用申し込みを中心に増加傾向にあり、2015年以降は年間100件以上に及ぶ。相談者は、50～60代の男性が多い。

●秋田市の豪雨災害時に、いち早く復興を支援

同法人は、2023年7月に秋田市が大雨被害に見舞われた際にいち早く復興を支援したことで注目を集めることとなった。被災を免れた「story cat」を拠点に、被災2日目から県内外の個人や企業、関係団体からの救援物資の受け入れ、被災5日目からは避難情報の提供や個別訪問を始めたほか、炊き出しや物資の配布を毎週末行った。同年12月末まで、同法人は市内で床上浸水した3,183世帯のうち360世帯を支援し、6,000食以上の炊き出し・弁当を提供した。

現在は、被災経験により得た知識や情報を防災に活かす取組みを進めている。2023年から運営するコミュニティ食堂では、利用者の親子に防災への意識醸成の機会を提供しており、県内の他のコミュニティ食堂や子ども食堂でも展開していく計画を立てている。また、2022年から2年連続で大雨被害に遭った南秋田郡五城目町にあるシェ

アビレッジ株式会社(代表 丑田俊輔氏)とともに、復興支援に関わる団体や行政などの情報共有や連携を通して災害に強い地域づくりを目指す活動にも取り組んでいる。

●全国からも注目されるなか、更なる支援に意欲

坂下理事長は、2021年、米国のボストンに本部を置き女性のエンパワーメントに取り組むフィッシュファミリー財団が主催する「チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞」における「25人のリーダー」の1人に、応募者203人の中から選出された。続いて、2023年には全国商工会議所女性会連合会主催「第22回女性起業家大賞」グロース部門(創業5年以上10年未満)で特別賞を受賞し、翌2024年には公益財団法人社会貢献支援財団による「第61回社会貢献者表彰」を授与された。

全国からも同法人への注目が高まるなか、坂下理事長は、「『地域にある資源を最大限に活かして無いものは創る!』をモットーに、住む場所や働く場所がなく困っている人が目の前にいたから用意してきただけ」と話す。また、「人は、社会や誰かの役に立っていることを実感できる居場所が必要である。これからも、誰もが自分の役割を持って働ける場を創り続けたい」と、社会的弱者の経済的自立支援に更なる意欲を見せる。

(相沢 陽子)

坂下理事長からのひと言

より多くの企業の皆さまに私たちの活動を知っていただき、就労機会、災害時の救援物資の提供など幅広くご支援いただけますようお願いいたします。